1．浅野　幸男氏（株式会社デンソー九州　代表取締役社長）

**「市域外も経済圏と捉え、
人口増を目指してほしい。」**

浅野　幸男（あさの　ゆきお）
1983 年自動車システム部品の総合メーカー(株)デンソー入社。2 度の米国赴任を経て、2019 年から西日本の生産供給を担う(株)デンソー九州を担当。北九州の若い仲間と、九州のモノづくり地位向上に挑戦。北九州が好きになり移住を決意。23 年末退任後も、家内と当地での生活をエンジョイ予定。

「過去に囚われず前向きに」

過去に囚われず、将来を見据えて考えていけば良いのではないでしょうか。北九州市が持つ経営資源を使うことで日本のリーディングシティになることができると考えます。企業経営をしていると到達目標や、「何をやるか」といったことが重要視されます。行政では、人口を増やすことだと思いますが、そのために人口増に結び付く資産について一貫性を持ちつつ、底上げしていくことが必要でしょう。ポテンシャルはたくさんありますが、それらが人口を増やすことに対して有効なのかどうかを考えてみてはいかがでしょうか。

「歩いて行ける範囲に
食事・買い物・医療の全部がある」

もともと名古屋での生活が長く、アメリカ駐在を経て北九州市に来て５年経ちますが、気に入っています。

北九州市では歩いて行ける範囲に食事･買い物・医療の全てがあります。今までの赴任地では何らかの交通手段に頼らなくてはいけませんでした。住んでみると実感を得られますが、住んでみないと分からないことかと思います。

上京の際は、北九州空港と福岡空港の半々の利用で、やはり軌道系アクセスの必要性を感じます。

「市域外も経済圏に含めて考えるべき」

稼ぐことは、企業の中では当たり前にやっていることなので、「稼げるまち」というフレーズは違和感なく感じます。但し、何で稼ぐかがポイントで、総花的で考えるよりは集中できる項目を考えた方が良いと思います。市域外も含めて経済圏と捉え、エコシステムを構築できるかどうかが大切で、北部九州圏として、機能分担も必要ではないでしょうか。

また、人口増に向けては、職を創出しなければなりません。その際もやはり、市域外も経済圏と捉えるべきでしょう。職場は別の自治体でも、北九州市に住みたいという人もいます。その時に重要なのは、交通インフラです。特に北九州空港へのアクセスは重要です。

福岡市を目指す必要はなく、どう役割分担をしていくか、という視点を持つことが大切です。福岡市と簡単に行き来ができる、アクセスを便利にするという視点も必要です。週末買い物をする場所が福岡市でも、不動産価格が北九州市の方が安いということを生かして、住みたいという人を増やしていくのも一つの手だと思います。

「人口増の施策は効果の検証を」

観光面では、インバウンドに力を注いでも人口は増えないと考えています。アミューズメン

トでは人は増えません。観光地という意味では、北九州市は通過点ですが、少なくとも１泊だけはしてもらえるようにするといったことも考えられるのではないでしょうか。

子育て支援については、これまでやってきた実績が、人口増にどれほど役立っているのかを検証することも必要かと思います。

「優秀な人材を惹きつけることが重要」

人材に関しては、優秀な人材をどのように惹きつけるかが重要です。地元には九州工業大学など理工系大学がありますが、採用は難しい状況です。最近は採用しても定着率が低いのですが、おそらくその理由は若者の中に将来に対する漠然とした不安があるからでしょう。“これから仕事が増えていく”というイメージを見せるためには工夫が必要です。製造現場は入社してから育成することが使命です。一方、技術者は技能をアップし、キャリアを伸ばし続ける必要があります。

「他にない強みをどうアピールするか」

他所にない強み、全国区で北九州市の優位性をアピールできるポイントがあることが若者には響きます。グリーンなど、新しい機軸を議論して、どうユニークさを出していくかが重要です。

また、北九州市でもグリーン成長戦略を進められていますが、これを企業立地に結び付けるようにしていかなければなりません。グリーンエネルギーを使えるとなれば、企業誘致にインパクトがあると思います。

GX は、関連企業がうまく集積してエコシステムをどのように構築するのかが重要です。

「クリーンな製造業のイメージを浸透させていくべき」

北九州市のイメージとしてはやはり、ものづくりがベースになっています。そのイメージを、クリーンで世の中の役に立つというものだ、というイメージに引き上げることが大事です。製造業の現場も昔と比べてずいぶん変わってきました。ソフトのウェイトが大きくなり、スマートになってきているのでその点がアピールできれば良いと考えます。